

【本件リリース先】  
文部科学記者会、科学記者会、  
広島大学関係報道機関



広島大学

NEWS RELEASE

広島大学広報室  
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2  
TEL : 082-424-3701 FAX : 082-424-6040  
E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

令和6年9月17日



## 新発見！ 彰子入内に皇子誕生の祈りを籠めた秘密曼荼羅

### 情報提供

#### 【ポイント】

このたび、園城寺法明院（滋賀県大津市園城寺町 246）に伝来する仏画『五部心観』について詳細な光学的調査を実施したところ、その制作年代が概ね西暦 1000 年頃に遡ることなどが明らかとなりました。法明院本は、平安時代の宮廷絵師による数少ない貴重な遺例であるばかりか、制作者に藤原道長とその姉で一条天皇の母でもある東三条院藤原詮子を想定できるという、新たな見解が得られました。

#### 【概要】

フェノロサ・ビゲローなどと関係の深い園城寺子院の法明院には、昨年度ユネスコの「世界の記憶」遺産に登録された園城寺の秘仏、国宝『五部心観』の写本が伝来しています。

幕末期の写本とされていた法明院本『五部心観』を改めて精査したところ、線質に照らしてその制作年代は、十世紀第一四半期の高野山有志八幡講の国宝五大力菩薩像を淵源とし、天喜元年（1053）の国宝平等院鳳凰堂扉絵を世代が離れた下限とする時期、具体的には西暦 1000 年前後に置けることがわかりました。しかもその画家は、数々の国宝に比肩し得る実力ある画家、この時代にあっては宮中の絵師を想定することができます。

さらに、法明院本の保存状態や作風（表現や技法）、特定の尊像に施された細工などから、法明院本は、長保元年（999）藤原道長の娘彰子入内に際して、道長と詮子とが皇子誕生を祈願して制作した曼荼羅そのものであると言えるのです。

#### 【背景】

大津市歴史博物館の展覧会（『三井寺 仏像の美』、2014.10）において、「『法明院本』には、墨書に『安政四年丁巳四月朔日以原本校了 敬彦』とあり、安政四年（1857）に法明院の敬彦によって書写されたことが分かります」と誤って解説されたため、これまで誰も関心を払ってきませんでした。この墨書は同じ箱に入っている別文書のものでした。初めて法明院本の実物を拝見し、その精妙な描法が到底幕末のものとは思われず、精査に及んだ次第です。

#### 【調査・研究の内容】

国宝『五部心観』は、天台寺門宗開祖の智証大師円珍が、唐の大中九年（855）に師である青龍寺法全から密かに伝えられて以来、厳重に守られてきた秘仏であり、現代においても園城寺トップの「長吏」だけが、余程の行事に臨む時に限って開くことができるものです。

その理由は、『五部心観』の内容が、男女尊を明確に描き分けたり、俯瞰して礼拝する円形の曼荼羅であったりと、インド僧善無畏から何人かの弟子を経て法全、そして円珍へと伝授された、インド密教本来の古い様式をそのまま引き継いでいるからです。

『五部心観』と比較すると、空海が持ち帰った掛軸形式の金剛界九会曼荼羅が、実は金剛智・不空によって大きく中国的に改変されたものであることが明確にわかります。

日本仏教絵画史上において、法明院本は天喜元年（1053）の国宝「平等院鳳凰堂扉絵を凌駕する和様の極致ともいべき描線で表されており、概ね西暦 1000 年頃に置くことができることなどが明らかとなりました。平安時代の宮廷絵師による、数少ない貴重な遺例と言えます。

西暦 1000 年頃といえば、比叡山において円仁派と円珍派の対立が頂点に達し、とうとう円珍派が山を下りる時です。この時に園城寺長吏余慶ら円珍派の多くが移居したのが昌子内親王によって岩倉の大雲寺に建立された観音院ですが、この大雲寺は紫式部の曾祖父である藤原文範が創建したもので、角田文衛氏によって光源氏が紫の上を発見する「北山のなにがし寺」に比定された寺院です。

その後、余慶の高弟たちは西坂本に拠りながら、藤原道長との関係を強め、園城寺を本拠地とするべく整備を進めます。一方、道長は姉の東三条院藤原詮子の後援のもと着々と地歩を固め、長保元年（999）娘彰子の入内に漕ぎつけます。

この時期、寺門派にとっては独立の可否がかかった危機的な状況にあります。法明院本の制作者は、その中であって秘仏曼荼羅を借り受け、宮廷絵師に転写させることができる人物であり、寺門派にとってもそのことが独立に大きく益しなければ意味がありません。

法明院本は彰子の入内に際して、道長と詮子とが皇子誕生を祈願して制作した曼荼羅そのものであることを、法明院本の保存状態や作風（表現や技法）、特定の尊像に施された細工などを証拠として発表致します。

### 【今後の展開】

法明院本は、絵画史上数少ない平安仏画の貴重な基準作例になり得ることに加え、藤原道長政権との関係性の中で美術作品が生み出されていく歴史の一断面を雄弁に語るものとして、今後も美術史学研究の発展に大きな影響を与えられれます。

### 【記者発表】

1. 発表日時：令和 6 年 9 月 18 日（水） 午後 1 時 30 分～
2. 場所：園城寺事務所（滋賀県大津市円城寺町 246）
3. 発表者：広島大学大学院教授 安嶋紀昭氏（仏教絵画史）  
大阪教育大学准教授 高間由香里氏（仏教絵画史）
4. 連絡：園城寺事務所 TEL：077-522-2238
5. 内容：
  - （1）五部心観の一般向きの解説、国宝の指定理由など。
  - （2）法明院所蔵本の調査から判断できる特徴、時代、画師など、美術史的意義。
  - （3）制作目的について、道長側の思惑と寺門派の事情など。

### 【お問い合わせ先】

大学院人間社会科学部研究科 人文学プログラム  
教授 安嶋 紀昭（あじま のりあき）  
Tel：082-424-6618  
E-mail：ajima@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）

